

# 絆

153 号



自由民主党

前衆議院議員

## 桜田よしたか



### 日本！この国を強い国に！ ～国・地域・家族を守る～

#### 燃える“政局夏の陣” 解散・総選挙は近い！？

#### 国民目線、庶民感覚の政治を取り戻そう

うだるような暑さの中、政界がキナ臭さを増しています。火種は、消費税引き上げを柱とする社会保障と税の一体改革関連法案成立を前に行われた民主、自民、公明の3党首会談。この席で野田首相は「法案が成立した暁には、近いうちに国民の信を問う」と早期の衆議院解散・総選挙を事実上、約束しました。「近いうちに」とはいつのことでしょう。2週間以内？ 一か月後？ 1年先？ どうとでも取れる“玉虫色”の合意だけに具体的な解散の時期をめぐる様々な憶測が飛び交っています。想定される衆議院解散のパターンはいくつか考えられます。

▽9月＝通常国会会期末解散

《主な政治日程》

一体改革関連法案成立をもって解散に踏み切る。  
特例公債法案、衆院選挙制度改革法案成立後？

▽10～11月＝秋の臨時国会解散

2012年度補正予算案などの成立後に解散。公明党が志向。

▽13年1月＝次期通常国会冒頭解散 2013年度予算案の編成後に解散。今回の3党首会談の合意により、年明け以降の解散の可能性は遠のく？

▽13年4月＝4月解散 2013年度予算案の成立後に解散。

▽13年夏＝衆参ダブル選挙衆院選と参院選の同日選。参議院議員の任期満了は7月28日、衆議院議員の任期満了は8月29日。

さまざまなケースが想定されますが、私の意見を問われれば、「早ければ早いほどいい」と答えます。これまで一貫して主張してきたように、出来るだけ早く有権者の審判を仰ぐ＝今国会中の解散がベストと考えています。

理由は簡単明白です。前回2009年総選挙で民主党は「任期満了まで4年間お消費税を上げない」と訴えていました。約束になかった重要政策を実施すること、しかも国民の台所を直撃する大改革なのですから直近の民意を問うのは当然——この2点に尽きます。ところが、民主党の本音は「総選挙はできるだけ先送りしたい。できればこのままズルズル任期満了まで引っ張りたい」。執行部がこう判断するのは、いま解散すれば選挙で大敗する可能性がきわめて高いからです。

自民党から民主党に政権が移って3年。この間に露呈したマニフェスト違反の数々、政権担当能力の欠如に国民はあきれ、怒っています。民主党は有権者のお灸を恐れているとしか映りません。

だとしたら、総選挙を回避することは明らかな党利党略個人利個人略です。信頼を失った政党が、政権にしがみつきたい理由で選挙をいつまでも先延ばしするなんて許されるはずがありません。

国家・国民の損失が続くだけです。こんなことを続けていたら政治に対する信用はますます失墜し、行き着く果ては「日本沈没」という悪夢です。国民目線にマッチした政治、庶民感覚を実現する政治を取り戻すため、私は一日も早い解散・総選挙を粘り強く要求していきます。

8月10日	参院で一体改革関連法案が可決、成立
11～19日	国会のお盆休み期間
9月8日	通常国会会期末
21日	民主党代表選
下旬	自民党代表選

## 自民党はなぜ敗れたのか?～「失敗」の教訓

### 長期政権のおごり、強いリーダー不在、足腰の弱り

自民党が政権を奪回し、国民の願いがかなう政治を実現するにはどうすればいいか?民主党の失政を批判し、あら探しするだけでは真の答えは得られません。

2009年総選挙で自民党はなぜ敗れたのか?敗因を分析するとともに、真摯な反省が必要です。私自身も含め、反省すべきは反省し、改めるべきところは改めない限り自民党再生の道はひらけません。

選挙直後に読売新聞が行った世論調査によりますと、民主党が大幅に議席を伸ばした理由として46%の人が「麻生首相や自民党への不満」をあげ、次いで37%が「政権交代への期待」と答えました。多くの人がそれまでの自民党政治に不満を持ち、「民主党に一度やらせてみよう」と考えたようです。

#### ●長期政権のおごり～上から目線はノー、自民党再生は国民目線で

自民党が「歴史的惨敗」を喫した最大の原因は、ひと言でいうと「長期政権からくるおごり」だったと思います。21世紀型の明確な国家・社会ビジョンを打ち出すべきだったのに、若い無党派層を中心とする有権者のニーズの変化に気づかず、小選挙区制という新しい戦いに対応できないまま、時代から取り残されてしまいました。地球環境の激変に耐え切れず絶滅した恐竜やマンモスのように。自民党は1955年の結党以来、ほとんどの選挙で勝ち続けてきました。組織も人も、成功しているうちは自らを振り返り、自己変革するのは容易ではありません。自民党も長期間の成功体験が体質改善を妨げてきました。そして国会議員も地方議員もいつの間にか国民目線を忘れ、上から目線で物事を見る「成功者のワナ」に陥ってしまったのです。

おごり高ぶった態度が有権者の目には「長老支配との決別や派閥解消はかけ声倒れ。自民党は相変わらず古い体質をひきずっている」と映り、「この辺で一度こらしめておこう」という投票行動につながったのではないのでしょうか。まさに「おごる平家は久しからず」です。

正直に言いますと、私も前回の選挙で落選してからのほうが、有権者の声が「よく聞こえる」ようになりました。街宣活動やミニ集会で地元の方々と膝を交え目線を合わせて話をすると、人々の願いや思いが深く心に響くようになったのです。

自民党は大量の落選者を出しました。全国で今、たくさんの同志が次の選挙での返り咲きを目指し、苦労しています。その仲間たちが口をそろえて言います。「庶民感覚というものがあるやうやく分かった」と。しかし、自民党本体や現職議員は「私たちは生まれ変わりました」と胸を張って言えるのでしょうか。心の底から反省し、自己変革したのでしょうか。来るべき総選挙は体質改善、自己変革の質を問うリトマス試験紙になるのではないかと思います。

#### ●リーダーこけたら、皆こけた～若手の登用、育成が急務

総理・総裁といえば“選挙の顔”そのものです。総選挙ともなれば自民党総裁は応援演説のため全国を飛び回り、党の公約やスローガンを訴えます。有権者が政党を選択するタイプの小選挙区制では党首の人気・不人気は獲得議席数を大きく左右します。たとえば小泉元総理のような人気者だと街頭演説に人があふれ、評判の悪い総裁だと「頼むから来てくれるな」と候補者の側から“お願い”する事態になります。

自民党は2009年総選挙を前に旗頭ともいべきリーダーが次々に交代したことが大きく響きました。安倍晋三さん、福田康夫さんは1年足らずで政権を投げ出す格好で退陣し、後を継いだ麻生太郎さんは解散のタイミングを誤ったばかりか、さまざまな言動が物議をかもし、威信が低下しました。(元総裁を悪くは言いたくないのですが)麻生さんの場合、マスコミを敵に回したことが致命的でした。一流ホテルでのほしご酒、定額給付金をめぐる発言のブレ、漢字の誤読・等々、ふだんならそれほど問題にされない事柄がおもしろおかしく取り上げられ、自民党の信頼度はどん底でした。こうした報道が引き金になり、大敗への道をたどったのです。〈総理・総裁が気に食わない⇒自民党にお灸を

「する必要がある⇒民主党に一度、政治をまかせてみよう」という心理的プロセスで、自民党には逆風、民主党には追い風が吹いたのではないのでしょうか。

戦後政治史をふりかえると、自民党は数々のすぐれたリーダーを輩出してきました。吉田茂、佐藤栄作、田中角栄、中曽根康弘といった政治家たちです。功罪や毀誉褒貶はありますが、こうした政治家は強力なビジョンを示して日本を引っ張り、繁栄の基礎を築きました。

しかも、修羅場を勝ち上がり、トップの座をつかみ取った猛者ばかりですから、大局観は備えているし、勝負度胸も満点でした。ないものねだりをして仕方がありませんが、スケールの大きな政治家が一人でもいてくれたら…と思うのは私一人ではないでしょう。しかし、自民党には大政治家を生み出した伝統、DNA がどこかに残っているはずですよ。

党内を見渡すと、日本の将来を背負えるような素質を秘め、ヤル気にあふれた若い政治家が何人もいます。現在は長老支配に頭を押さえつけられ、陰に隠れているだけです。力のある若手を思い切って登用する一方、新人を発掘し育てるシステムの構築を急ぐべきではないのでしょうか。

土に埋もれている若い芽を掘り起こし、リーダーに育てあげることこそ自民党再生の最短の道。われわれ団塊の世代の役割ではなからうか——そう信じる私は、政治を志す若者を手もとに預かり、日々鍛えてあげています。

## ●地方組織にも弱体化、高齢化の波～歴史に学ぶ

自民党を長年支えてきた地方組織や個人後援会が揺らぎ、弱体化しています。黨員数の減少に歯止めが効かず、メンバーも年老いてきています。そうした事情もあって前回は組織的な選挙戦術が十分に機能しませんでした。有権者ニーズの多様化、無党派層の増大、業界団体の離反、少子高齢化の影響・理由はいろいろありますが、地方の足腰が弱っているのに自民党が組織の近代化、モデルチェンジを怠ったことに根本的な原因があると思います。「与党ボケ」から来る油断といっているかもしれません。2009年夏の選挙戦はたとえてみれば、日露戦争によやく勝った日本軍が古い装備のまま

第二次世界大戦に突入し、物量戦でアメリカに敗れたようなものです。日本陸軍には近代化できるチャンスがありました。ノモンハン事件です。この段階で古い戦術思想を捨て、装備を改めていけば戦争の様相もだいぶ変わっていたでしょう。しかし、軍部はノモンハン事件を「なかったこと」にし、体質改善の機会を逃してしまいました。「歴史に学ぶ」というなら、自民党にとってのノモンハンは1993年の総選挙に初めて敗れ、下野した時でしょう。「たら・れば」が許されるなら、野党に転落した選挙戦の敗因を徹底的に分析し、新しい時代にマッチした政党に生まれ変わっていれば、2009年の「歴史的惨敗」は避けられたはずですよ。あの時、短期間で政権に復帰したことが逆に仇になった、と今さらながら悔やまれます。

### ノモンハン事件

1939年（昭和14年）、満州国とモンゴル人民共和国の国境線をめぐって発生した日ソ両軍の軍事衝突事件。日本の関東軍はソ連軍の戦車や火砲など近代兵器の前に壊滅的打撃を被った。関東軍の戦死傷者約1万8000人。なお冷戦後、旧ソ連の秘密情報の開示ではソ・蒙両軍の損害は日本軍よりも多かったことが判明している。

## ビジョンを示そう 夢を語ろう～政権奪還への道～

解散・総選挙の機は十分すぎるほど熟しています。

「民主党に日本をまかせておけない」ことは明らかです。わたしは再びチャレンジすることを決断しました。さいわい皆さまのご支援をいただき国政に再び咲いたら、桜田よしとかはどのようにご恩返しするか——国家と社会の将来像、ビジョンをお示ししようと思います。

### 〈I〉永遠のテーマ…憲法改正と道州制





民主党政治への対抗軸として、私は骨太な将来展望を二つ持っています。生涯のテーマである憲法改正と道州制の導入です。憲法はいうまでもなく国の柱です。柱が借り物だったり、曲がっていたら国家という家は真っすぐ立つことが出来ません。

自民党は今年4月、新しい日本のありようを描いた「憲法改正草案」を発表しました。武力攻撃や大災害に対応する緊急事態条項の整備、自衛権の明記、国旗・国歌の制定、国民の権利及び義務の明確化などが主な柱です。私は選挙戦で改正案の内容を世に問い、当選した暁には国会の場で憲法改正、自主憲法制定に全力をあげる所存です。

もう一つは地方分権の拡充、つまり道州制です。これまでもたびたび訴えてきたように、日本列島を東京一極集中から地方拠点都市の充実に作り直そうという構想です。「道州制」は自民党も他の政党も政策に掲げ、いまや流行語のようになっていますが、本気度となると??です。長年、地道に取り組んできた私の道州制は「三ゲン」、つまり「権限」「財源」「人間」の3つを中央から地方に丸ごと移し変えることです。

どちらのテーマも重く、本気で実行するには多くの抵抗と痛みを伴うでしょう。しかし、民主党が言っているような耳ざわりのいい、大衆迎合型の政策ではニッチもサッチもいかないのは明らかです。思いつきで大風呂敷を広げたり、財政の裏付けもないのにカネをばらまいたら将来どうなるでしょう。子や孫の世代へのツケ回しという形で禍根を残します。同じ苦勞をするなら、われわれの世代が引き受けようではありませんか。

## 〈Ⅱ〉若年層に夢を

給料は安い、結婚できない、子どもを持ってない…20代から30代の若者たちを見ると気の毒になります。

パートやアルバイトといった非正規労働者は雇用者全体の3分の1、完全失業率は4~5%台に高止まりしたまま。若年層に限ってみると、昨年の平均失業率は20~24歳=7.9%、25~29歳=6.3%と突出しています。これでは豊かな暮らしなど望めないし、おいそれと家庭も持てません。

日本の明日をにやう世代が夢をもてない国に未来はありません。そのためには 政治が▽安心して働ける職場 ▽安定した雇用 ▽失業や病気などの支援体制（セーフティーネット）を用意しておく必要があります。

私は次のような施策を頭に描いています。

- ① 失業手当期間の延長と職業教育訓練の充実。非正規・非熟練労働者が低賃金に甘えざるを得ない状況を改善する。
- ② 若年層を積極的に正規雇用する企業に対する優遇措置。助成金や低減税率を適用する。
- ③ 国の財政出動により雇用の場を確保する。

★桜田義孝千葉テレビ既放送分について、動画サイト YOUTUBE にてご覧いただけます！

桜田義孝がメインキャスターの情報番組「サタデー千葉プロジェクト」※既放送回について、順次 YOUTUBE に UP していきます！乞うご期待！



## 党員募集のお知らせ

【入党手続き】桜田事務所までご連絡ください

【自民党員になると】2年間継続した党員は、自民党総裁選挙の有権者となります。また桜田義孝事務所より活動報告や行事案内をお送り致します。

【党員種類】一般党員 年間 4,000 円 家族党員 年間 2,000 円

桜田義孝事務所

〒277-0814 柏市正連寺 374 TEL:04-7132-0881 FAX:04-7132-6456

ホームページ <http://www.sakurada-yoshitaka.com/>

メールアドレス [web@sakurada-yoshitaka.com](mailto:web@sakurada-yoshitaka.com)

Twitter (ツイッター) <http://twitter.com/ysakurada>